

『チームナーシング研修』

研修会実施報告

日時 : 平成 30 年 7 月 14 日

対象者 : 卒後 2. 3 年目・実地指導者

参加者数 : 37 名

目的 : 1. フィジカルアセスメントの意義を理解し EBN に基づく看護の提供ができる
2. 実地指導者としてモデルとなる行動をとることができる

<講師の紹介>

放送大学大学院 生活健康科学プログラム教授
一般社団法人国際臨床アセスメント実践教育
研究会 代表理事

山内 豊明氏

必要度研修、フィジカルアセスメント研修など
長年にわたり講義をしていただいています。



<内容>



アセスメントの進め方・臨床推論、急変時のアセスメント、呼吸の聴診の 3 部構成で研修が行われました。事実と推論を区別し、わかった情報を正しく伝えて共有する。そして、その情報を正しい共通用語を用いて表現しアセスメントを完成させることが重要です。アセスメントのゴールは「伝わる」ということ、記録は自分の感想になってはいけないことが理解できました。また、急変時はまずはバイタルサインとなりますが、道具がなくても自分自身の五感から情報を得て、アセスメント出来ることを学びました。呼吸、脈拍、血圧、体温、意識レベル、対光反射、瞳孔に関して具体的な観察方法を教えていただきました。まずは患者に触れ、次に緊急度の判断を行いアプローチしていくことを学びました。最後に実際異常呼吸音を聞かせて頂き、今後の看護に活かせることが出来ると思います。今回の研修の学びから、アセスメント力の強化ができ、看護の質の向上に結びついていくことを期待しています。